

# 長 蓮 寺 報

NO.6 (平成13. 12. 3)

## 心の鏡について

12月1日に皇太子様に内親王様がお生まれになりました。今年もアメリカのテロ事件を代表として今まで考えも付かないような事件が多発して、景気も思うように良くなならない、薄暗いこの年の瀬に一夜の光が射したよな明るい話題にとっても喜ばしい限りです。すこやかに御成長なられることをただただお祈り致します。

ところで、最近ではあまり重要視されなくなりましたが、「鏡」について元来日本人は大変重要なものとして扱ってきました。

天皇家でも天皇の継承の証として「鏡」が用いられますし、神社などに行くと神様の前には必ず置いてあります。

よくよく考えてみると私達の家にも玄関やお風呂場・洗面所等 色々な所に必ず「鏡」があります。特に女性の方は毎日、「鏡」の前でお化粧したりします。

もし家の中に「鏡」が一枚もなかったらどうでしょうか？

いつも通りにお化粧し出かけたつもりでも「奥さん眉毛が一本無いですよ！」と言われかねません。そうなるからでは後の祭りですね。

私達はこの「鏡」を何気なく使っていますがとても大切なものなのです。

この鏡にも色々あり、今述べたのは、姿を映す「鏡」ですが、同じように家の中には「心を写す鏡」もあります。

「心を写す鏡」とは一体どの様なものでしょうか？

現在放送されているNHK 朝の連続テレビ小説「ほんまもん」のなかで主人公 木葉（池脇千鶴）が精進料理を勉強するために清風寺の庵主（あんじゅ）様（野際陽子）の寺に修業には入り、色々な作法などを習います。

その中で掃除の心構えについて、「掃除はお経を読むと同じ位の修行になるのです。嫌々やっていたら掃除をしている姿ですぐ判るし、見なくても掃除の跡がそのまま顕れるから、すぐに判ります。」と教えを受け、上の空で掃除していた主人公が何回もやり直されたシーンがありました。

正にこれが「心を写す鏡」だと思います。

つまり、私達が、何も欲せず一生懸命に仏様に向かってお題目を唱えたり、掃除したりしているかどうか、が当に「心を写す鏡」であり、至ってはその人の人格にも顕れるのです。また、その鏡を磨くことによって社会や家庭でも真の幸福が訪れるのです。

皆様にとって平成十四年が幸多き年になりますように。

合掌

### 平成14年 年忌表

1 周忌	平成13年	1 7 回忌	昭和61年	3 7 回忌	昭和41年
3 回忌	平成12年	2 3 回忌	昭和55年	4 3 回忌	昭和35年
7 回忌	平成 8年	2 7 回忌	昭和51年	4 7 回忌	昭和31年
1 3 回忌	平成 2年	2 3 回忌	昭和45年	5 0 回忌	昭和28年

## 長蓮寺の基礎知識 Q & A

### Q：写経の功德について教えてください

写経の功德についてはお釈迦様の説かれたお経の中に沢山書いてあります。その中でも私達が毎日唱えている『法華経』の「如来神力品」と言う21番目のお経の中に「まさに一心に受持・読誦・解説・書写して修行すべし」と、説かれています。

〔 仏さまの滅後（亡くなられた後）には私の言ったこと（お経）を  
五種の行い（受持・読誦・解説・書写）を中心にして修行しなさい。 〕

わたしたちが写経をすることはその仏さまの教えの5番目の書写することにあたる、大事な修行なのです。

さらに、写経の功德が述べられているのは経典だけではありません。ここ富山県（越中）の昔話にも次のような物語があります。

越中のとある所に地方の役人がいました。その男はたいへん誠実で働き者でしたが、ある時、妻が突然、亡くなってしまいます。子供たちは、もう一度母にあいたいと願い、寺の住職に聞いたところ立山の地獄温泉に行けば会えるかもしれないと聞き、その坊さんと一緒にたずね行きます。そこで、苦しんでいる母の声をききます。

母は「自分の罪業はとても深くて、一日に法華経を千部（千回）書写する善根をつんでもらわないと、とても救われない」と訴えます。

しかし、とても千部は無理ですが、すこしでも書写して母の苦しみを取り除こうと、帰って父と相談します。

父は、役所の人や隣の圀の人にも協力をしてもらい、ついに千部を書写しおえて、供養の法会を営むことができました。それからまもなくして、その子供たちは、美しい衣服をつけた母が

「みなさんのしてくれた写経の功德により、地獄をぬけだし、寂光土へ生まれかわることができました」といって、空へ昇っていく夢をみました。



上記はほんの一例でありこの他にも写経の功德があった話は『今昔物語』を初めてして全国各地に民話として沢山伝えられております。

ただ、こうみてきますと、功德とは、いわゆるご利益と同じように、眼にみえる、形にあらわれたもののように理解されがちですが、決してそんなものではありません。写経をなさった方はもうお判りになっていらっしゃると思いますが、一心に難しいお経を書き写すと言うことは「無心」になることができます。この慌ただしい世の中ではなかなか「無心」になれる時などありません。

ですから、是非 毎日30分、否、週に一時間、月に1時間でも結構ですので写経を行っていただけたなら、心からリフレッシュする事により、会社でのめめごとに執著せず、すがすがしい気持ちで仕事ができ、家庭でもいらいらせず、おだやかな家庭生活がおくれるようになれます。これからのゆとりのある生活がおくる為にも是非写経をお奨めいたします。

また、当長蓮寺の写経会に時間の都合で参加されなくても、住職に申し出ていただければ、写経セットをお渡しいたしますので時間の取れるときに御自宅でなさっていただいても宜しいかと思えます。



## 四苦八苦

「景気が悪くて四苦八苦よ。」近頃どこでも聞かれるこの言葉も仏教を起源としております。世の中には八つの苦しみがあって、この世に生を受けたもの等しく甘受せねばならぬと教えています。生、老、病、死の四つの苦が最初に出てまいります。生まれるとき、次に年を重ね老いてゆくときに味わう老いの苦しみ、誰もが経験する病気の苦しみ。病気の後には死の苦しみがあります。

生、老、病、死の四苦に、愛別離苦、怨憎会苦、求不得苦、五陰盛苦の四つの苦が加わって八苦となります。仲のよい友達や愛する家族と別れる苦しみ 苦手な奴と付き合いかねばならぬ苦しみ、自分の思い通りにならない苦しみ。五感が誤作動する、今日で言うトラウマの苦しみです。

宗祖 日蓮聖人は「諸難にも会え、身命を期とせん」と仰せになり、あらゆる苦難に立ち向かう勇気を持って日々を後悔無いように過ごしなさいと教えておられます。こういう世の中ですのでより一層、深く肝に銘じたいものです。



## ◎ 立教開宗750年

来年は日蓮大聖人が「南無妙法蓮華經」を唱えられて750年になります。

本山でも5月の23～26日まで記念法要があります。

その法要に合わせて4ヶ寺合同（本壽寺・本陽寺・岩瀬上行寺・長蓮寺）で団参を募ってお参りに行く計画を立てております。（日帰りで）

本山へ行く良い機会ですので多数の方々の御参加をお持ちしております（分骨することもや管長様より存修御本尊をいただくことも出来ます。）

詳しくは年明け後 皆様に御案内いたします



総本山 本成寺

## ◎ 団参旅行について

また、上記の本山への参拝とは別の日程（1～2泊位）で千葉方面への旅行を計画しております。

初めて日蓮聖人が「南無妙法蓮華經」を唱えられた清澄寺や日蓮聖人がお生まれになった誕生寺などをお参りする予定です。



清澄寺

## ◎ 平成十四年年頭祈禱会

・七日会・写経会のお知らせ

- 1月12日（土）午前11時より  
7日会の年頭祈願会を開きます。  
ご希望の方は別紙の申込用紙にご記入の上お申し込み下さい。

尚、来年の年頭祈禱会を

7日より12日に変更いたしましたので

ご了承下さい

- 毎月7日午後2時よりお経の練習会をひらいております。  
参加費無料になっておりますので気軽にお越し下さい。

○次回の写経会は3月7日（木）午後1時を予定いたしております。